

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400047		
法人名	特定非営利活動法人リスペクト		
事業所名	認知症高齢者グループホーム碧水 A棟		
所在地	北海道雨竜郡北竜町字碧水15番地2		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	平成29年11月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosoCd=0197400047-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosoCd=0197400047-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、今年8月26日にUHB文化放送でスプリングラーのTV取材を受け、平成29年8月27日に午後6時17分頃から放映されました。小さい規模の事業所においてはスプリングラーを取り付ける事は経営的にも大きな負担となっており、助成金の交付だけでは十分な施工工事でもできず、持ち出しも多い事から、小さな事業所では施設を開鎖したり事業を廃止するといった状況もあると聞いております。その後、地域の皆様からもグループホームの事業展開にはいろいろな課題が山積しており、大変なんだと言う反響もいただいております。また、慢性的な人材不足は時間とともに深刻な状況ともなっており、施設を建てても開設できないといった状況もあり、当法人も例外ではありませんが、職員どうしでの横の関係を広げながら人材確保に全力を挙げているところです。職員不足は施設を運営している事業所にとっても致命的な課題にもなっていることから、早くこの問題が解決でき、明るい未来の見える施設運営ができるようにしていただきたいと思っております。地域密着サービスという関係からも、地域住民の皆様と年に一度は一緒にいる機会を作り、毎年恒例になっております焼肉パーティーも例年とは工夫を凝らしボランティアの力を借りながら余興を取り入れ楽しい焼肉パーティーを開催することができました。ホームの行事も固定的ではなく、利用者の皆さんと話し合い、今、何がしたいか、何が食べたいか等日常的に聞きながら、出来る事があればすぐ実行するといった方法も取り入れて、利用者の皆様に喜んでいただける施設づくりを目指しております。(回転寿司・買い物ドライブ・さくらんぼ狩り・紅葉ドライブ等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成20年11月にA棟1ユニット(定員:9名)で開設し、平成28年4月にB棟1ユニット(定員:9名)を増設して現在2ユニット(定員:18名)の耐火構造木造一部2階建ての特定非営利活動法人(NPO法人)が運営するグループホームです。行政職員等に向けて認知症サポーター養成講座の講師を務めて認知症への理解や広報に努めていたり、焼肉パーティーを開催して地域の住民と交流する機会を設け、フラダンスや演奏などのボランティアの協力を得ている。また、地域の秋祭りや文化祭、ひまわり祭り参加や冬の除雪への協力など地域の人々との交流、連携に努めている。一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物、地域の神社祭参加など戸外に出かけられるよう支援に努め、増毛でのさくらんぼやりんご狩り、鮭の遡上見物や秋祭りの餅まき参加、レストランでの外食など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握して戸外に出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はつくって共有実践しておりますが、昨年度から2ユニットになり、それぞれのユニット毎の理念ができていないので、再度理念を職員と一緒に考えながら現実合った理念をつくって実践し共有していきたい	昨年度2ユニットに増設がされ、再度事業所理念の見直しを実施して、職員間でその理念を共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人々と交流が図れるように、焼肉パーティーや町の行事などに出向いて行って、地域住民と交流が図れるように努めています。また、今年からは町内会に支え合いセンターができて、幾度か利用者さんと一緒に出向きながらカラオケやゲームなどして地域の皆さんと交流を図っております。	行政職員等に向けて認知症サポーター養成講座の講師を務めて認知症への理解や広報に努めていたり、焼肉パーティーを開催して地域の住民と交流する機会を設け、演奏などのボランティアの協力を得ている。また、地域の秋祭りやひまわり祭り参加や冬の除雪への協力など地域の人々との交流、連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は役場職員の認知症の人への理解ということで研修会に呼ばれ、約20名程度の人たちに向けて講演会をキャラバンメイトとして実施していましたが、今年度は認知症の研修会がなくて実践できませんでした		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1度は運営推進会議を実施しており、業務内容の事や現状の事等すべてについて報告させていただいております。今年は役員の改正もあり、また新たな気分で運営推進会議を開催しております	運営推進会議を定期的に開催して、日常生活の様子や事業所の取り組み状況、火災避難訓練など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いつも役場には何かあることに、細かなことでも連携体制がとれており、お互い相談をしたりするなど協力関係は良い状況と考えております	町担当者及び包括支援センターとは、日常的に情報交換や報告等を行いながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対行わないという考えから、利用者さんには自由に行動してもらっております。外へ行くときは職員が同行したり、夜間眠れなくて起きてきた場合でも職員が寂しくないよう寄り添って安心感を与える等のケアにも取り組んでおり、利用者様が安心して生活が出来る環境づくりに努めています。	外部研修への参加や内部研修会開催、日常業務を通じて職員間で話し合い、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修には毎年必ず、職員が研修を受けられる様に支援しており、職員同士、その行為が虐待にならないように注意を払うなど、お互いに注意をするといった状況ができております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度自体の理解は概ねできてはおりますが、実際に制度を利用して契約された方がおらず、深い理解には至っておりません。権利擁護の研修の機会があれば、積極的に参加したいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧を運営方針に掲げており、利用者やご家族様とのトラブルにならないように説明しております。また、トラブルになりやすい金銭面等での説明には時間をかけながら納得できるように説明をして理解をいただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、運営推進委員より貴重なご意見や要望をいただいております。いつでもこれらを参考にしながら、運営に反映できるよう取り入れております。また、ご家族様からの提案などにも耳を傾け、改善できる事は改善しながら運営しております。	家族等との交流の場を作り、意見や要望等を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるようにしている。また、家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置していると共に市町村等の苦情等の申し出先を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年から理事長にも参加していただき運営幹部会議を開催しております。運営に関しての職員の意見が聞ける時間を設けており、職員の要望や意見を聞きながら、改善できることは改善していくという姿勢で、運営を行っております。	運営幹部会議や職員会議、日常業務を通じて職員からの意見や提案を聞く機会を設け、そこで意見や提案等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の成果が給与に反映できるよう人事考課をこの4月から実施しており、やりがいのある職場環境の実践に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、札幌や旭川など積極的に職員を勤務扱いで研修に出しております。出張後の復命書も提出し、その後の職員会議の中で報告を行っております。また、介護職員初任者研修にも積極的に参加し資格の取得に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今年は事例発表後に他の事業所との研修会終了後において交流会に参加しており、横の連携を大切にしながら、すこしづつ新しい情報を取り入れながら、サービスの向上に繋がるよう取り組んでおります。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安等コミュニケーションを取り入れながらスタッフ全員でセンター方式を用い、日々の生活が安心して送れるようアセスメントを行いながら、利用者との関係づくりに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に家族の心配していることなど家庭訪問を取り入れながら、聞き取り調査も行っており、今後の方針等のアドバイスなども行ってまいります。また、家族の身になって考える姿勢で普段からも面接時等でも必要があれば、相談させていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族やご本人の悩みは意外と多くあり、利用者ご家族との関係がうまくいっているかどうかを見極めながら、心配事などに耳を傾け、その家族の抱えている課題などに適切なアドバイスが行えるように支援しております。また、ご本人の悩みなどもその時には言えなくても後で聞くように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員として捉えており、自分の親だったらどうするかを常日頃から心がけております。また、利用者同士も同じ家族といった気持ちが生まれており、入院などしたときには皆さんが心配するといった場面が見られております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援するのは本来の務めですが、ご家族の意見や考え方もきちんと聞き、勝手にホームの都合でサービスを展開するのではなく、例えば緊急に入院する場合、ご家族に連絡を取り、どこの病院が良いかを聞くなど出来る限りの配慮をするよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問支援や散歩、盆踊りや町内会行事等の参加を通じて、なじみの場所などとの関係が途切れないように努めている。	地域の秋祭りや文化祭参加、盆踊り参加や焼肉パーティでの地域の人々との交流、友人・知人の訪問支援等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が家族のようにいたわりながら生活している状況が見られております。一人ひとりの役割も構築されており、掃除担当や食事の後片付けを手伝ってくれるといったお互い助け合う気持ちが出てきております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期になって退去することになっても、いつも家族の一員として考えており、入院先の医療相談員や担当医師ともよく相談しながら、次の入居先なども見極めながら、ご家族に心配かけないようにご本人やご家族に支援しており、大変喜ばれています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用やモニタリングを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	生活歴の把握やアセスメントの実施で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で情報を共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の生活歴や昔から馴染んでいた生活などをご家族様に事前に書いていただき、介護計画の参考にしております。ただし、独り暮らしの場合は、家族に聞いても分からないことがあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月に一回のアセスメントを行い、その人の心身の状況や何ができて、何ができなくなってきたのかの把握に努めながら、毎日漠然と過ごすのではなく、1日を学園生活に置き換え、勉強するといった生活なども取り入れながら取り組んでおります。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式を活用してご本人、ご家族の意見や思いを反映するようにしています。また、モニタリングを通じて現状に即した介護計画を作成している。しかし、日常的に家族との係わりが少ないこともあり、ご家族の要望やご意見が聞こえづらいことになっていてと考えてもおります。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式を活用して本人、家族の意見や要望、モニタリングで職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録やバイタルチェック表を用いて、排泄の状況や血圧の状況、体温の状況など日頃から観察できるように、その日の記録だけでなく1週間前の状況などにも目を通して適切なケアができるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に即したその時のニーズを把握しながら、柔軟な支援ができるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇づくりなどを行い、お花を観賞したりして、それぞれの方たちが楽しめる環境づくりを実践しております。また、夏期には北竜ひまわり祭りのカラオケ大会や、秋期には福祉大会や町の文化祭にも作品を出展するなど地域の行事等にも参加しており、季節に応じ楽しんでいただいております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援しております。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっております。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、協力医療機関との連携や通院、日常の健康管理で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の勤務は、週一回午前中のみ勤務となっておりますが、皮膚疾患の処置やバイタルチェックを行っていただき、利用者の異常を職員が発見した時などには、適切なアドバイスをいただいております。また、夜間など相談したいときにはいつでも電話ができる体制になっていることから介護職員にとっても安心できる心強い存在となっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はいつもスムーズに市立病院側で対応してくれており、病状の説明や入院期間などの説明もあり、また、退院時は必ず前もって電話連絡があり、受け入れ準備がしやすく、利用者のお見舞いに1週間に1回程度病院へ出向き、看護師さんに状況を聞いて情報の把握にも努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有しています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人命救助の方法についてすべての職員が熟知しているかというまだまだといった感じですが、救急救命として、今年は事業所においてAEDを購入し、その使用方法や人口呼吸法等の研修を、消防職員を招きご指導いただく予定となっております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の緊急時に協力等が得やすいように、火災避難訓練に参加を呼びかけ、協力体制の構築に取り組んでいます。また、夜間を想定した避難訓練を中心として毎回行っております。また、北竜消防署との合同火災消火訓練にも参加させていただいております。	消防署の合同火災消火訓練への参加や地元の人々の協力が得やすいように火災避難訓練に参加を呼びかけ夜間を想定した火災避難訓練を実施している。また、AEDの使用方法、人口呼吸等の研修も実施している。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように注意しながら職員間で話し合っている	内部研修会開催や日常業務を通じて話し合い、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないよう職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望やその思いをセンター方式を通して情報を職員間で出し合いながら自己決定していけるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その人のペースを大切にし、職員の都合で何でもしてしまうことの無い様に留意しながらサービスの提供に取り組んでいます。今日はどのように過ごしたイカは本人が決めるように日課は固定しておりません。その人らしく生活できるように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには普段から注意をしており、お化粧品をすることは女性にとって生きがいともなっており、可能な限りお化粧品を楽しんでもらっております。下着なども汚れやすいことから、ご家族にも説明を行いながら下着の購入にもご協力いただいております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と利用者が食事の準備や後片付け等と一緒にしております。	焼肉パーティの開催やレストランでの外食で好みのメニューを注文できるように支援している。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付け等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在はレトルト食品を朝食と昼食に使用しており、味の方も利用者様から美味しいという評価をいただいております。栄養の面でも管理ができており、よい傾向になっております。夕食は手作りとなり、利用者様の食べたい物を中心に作る等の工夫をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや口臭が生じないよう、毎食後一人ひとりの口腔状態の観察や、本人の力でも口腔ケアができるように声掛けする等の支援を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔を個別にとらえるため、排泄チェック表を用い、できるだけ家族の経済的負担を軽減できるよう、時間を見計らってオムツに頼らないトイレで排泄ができるように努めております。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や便秘を及ぼす影響を理解し、出来るだけ運動ができるように声掛けしたり、歩行介助等を行いながら、個々に応じた便秘予防に努めております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	利用者様の希望に応じて、毎日午前入浴や午後からの入浴も可能として行っております。職員の都合で、曜日や時間を決めてしまうことは行わず、個々の希望に沿った支援を心がけて行っております。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて入浴が楽しめるように柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の皆様が、いつでも休息したり、ホールのソファールでお昼寝ができる環境づくりを心掛けており、利用者様は自分のお部屋で休むのではなく、ホールのソファールで好きなように過ごされ安心した気持ちで雑談したり、眠られております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の副作用や、用法、用量について理解しやすいようにいつでも見れる環境を整えており、服薬管理の支援と一般状態の変化にも留意する等にも努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課は特に決めておりませんが、その日の気分にもよりますが、勉強したい時にはいつでもできる体制を整えており、また、カラオケで歌を歌ったりと思いいに自分達で考え行動し、楽しい娯楽ができるように支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から冬にかけては、本人の希望があれば、職員と一緒に買い物や散歩に出かけたり、四季に応じた屋外ドライブや、町内や近隣地域の催し物などへ出向いていき、見学など行いながら楽しめれるように支援をしております。	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物など戸外に出かけられるよう支援に努め、鮭の遡上見物や秋祭りの餅まき参加、レストランでの外食など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握して戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は入居前になるべく持たせないように家族などにも説明しておりますが、どうしてもというご家族様に対しては、本人の財布のお金は管理ができず、なくなっても責任が持てませんとお話しております。3000円程度まではご本人に持ってもらっております。買い物など行くときに使ってもらっております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などから来た電話の取次ぎも行っており、その都度対応しています。また、手紙を書く方もおられますので、郵便局に出すなどの支援も行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間においては、趣味を凝らし、固いイメージがないように配慮しております。日中の照明は夜間を除き、一日中点けております。転倒予防にも役立っていると考えております。冬期間の温度管理は勿論の事、湿度管理では室内が乾燥していることもあり、中々湿度が上がらない状況もあり苦慮しております。ちなみにホール内では蒸気発生装置を4台使用し乾燥しないように努めております。	共用の空間では、温度や湿度の管理、季節毎の飾りつけ等で生活感や季節感を採り入れながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で利用者同士が会話できるよう目配りをしながら、いつでも利用者様同士が話す事が出来る環境づくりに取り組んでおります。職員がお茶を出したり、コーヒーを一緒に飲んだりコミュニケーションがとりやすいような雰囲気づくりに努めております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、可能な限り自分の家で使っていた物を持って来ていただき、自分の家と同じような環境をご家族様に作っていただき、生活できるように支援しております。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれたり、家族等の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、その人に応じた役割が日常の生活の中で自然とできるように自分の部屋の掃除や洗濯たみ等をお願いしたりして支援を行っています。何でもしてあげるのではなく、何ができて、何が出来なくなってきたのかを見極めながら支援を行っています。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400047		
法人名	特定非営利活動法人リスペクト		
事業所名	認知症高齢者グループホーム碧水 B棟		
所在地	北海道雨竜郡北竜町字碧水15番地2		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	平成29年11月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JigyosoCd=0197400047-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosoCd=0197400047-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、今年8月26日にUHB文化放送でスプリンクラーのTV取材を受け、平成29年8月27日に午後6時17分頃から放映されました。小さい規模の事業所においてはスプリンクラーを取り付ける事は経営的にも大きな負担となっており、助成金の交付だけでは十分な施工工事でもできず、持ち出しも多い事から、小さな事業所では施設を閉鎖したり事業を廃止するといった状況もあると聞いております。その後、地域の皆様からもグループホームの事業展開にはいろいろな課題が山積しており、大変なんだと言う反響もいただいております。また、慢性的な人材不足は時間とともに深刻な状況ともなっており、施設を建てても開設できないといった状況もあり、当法人も例外ではありませんが、職員どうしの横の関係を広げながら人材確保に全力を挙げているところです。職員不足は施設を運営している事業所にとっても致命的な課題にもなっていることから、早くこの問題が解決でき、明るい未来の見える施設運営ができるようにしていただきたいと思っております。地域密着サービスという関係からも、地域住民の皆様と年に一度は一緒にいる機会を作り、毎年恒例になっております焼肉パーティーも例年とは工夫を凝らしボランティアの力を借りながら余興を取り入れ楽しい焼肉パーティーを開催することができました。ホームの行事も固定的ではなく、利用者の皆さんと話し合い、今、何がしたいか、何が食べたいか等日常的に聞きながら、出来る事があればすぐ実行するといった方法も取り入れて、利用者の皆様に喜んでいただける施設づくりを目指しております。(回転寿司・買い物ドライブ・さくらんぼ狩り・紅葉ドライブ等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はつくって共有実践しておりますが、昨年度から2ユニットになり、それぞれのユニット毎の理念ができていないので、再度理念を職員と一緒に考えながら現実に合った理念をつくって実践し共有していきたい		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人々と交流が図れるように、焼肉パーティーや町の行事などに出向いて行って、地域住民と交流が図れるように努めています。また、今年からは町内会に支え合いセンターができ、幾度か利用者さんと一緒に出向きながらカラオケやゲームなどして地域の皆さんと交流を図っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は役場職員の認知症の人への理解ということで研修会に呼ばれ、約20名程度の人たちに向けて講演会をキャラバンメイトとして実施しておりましたが、今年度は認知症の研修会がなくて実践できませんでした		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1度は運営推進会議を実施しており、業務内容の事や現状の事等すべてについて報告させていただいております。今年度は役員の改正もあり、また新たな気分で運営推進会議を開催しております		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いつも役場には何かあることに、細かなことでも連携体制がとれており、お互い相談をしたりするなど協力関係は良い状況と考えております		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対行わないという考えから、利用者さんには自由に行動してもらっております。外へ行くときは職員が同行したり、夜間眠れなくて起きてきた場合でも職員が寂しくないよう寄り添って安心感を与える等のケアにも取り組んでおり、利用者様が安心して生活が出来る環境づくりに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修には毎年必ず、職員が研修を受けられる様に支援しており、職員同士、その行為が虐待にならないように注意を払うなど、お互いに注意をするといった状況ができております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度自体の理解は概ねできてはおりますが、実際に制度を利用して契約された方がおらず、深い理解には至っておりません。権利擁護の研修の機会があれば、積極的に参加したいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧を運営方針に掲げており、利用者やご家族様とのトラブルにならないように説明しております。また、トラブルになりやすい金銭面等での説明には時間をかけながら納得できるように説明をして理解をいただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、運営推進委員より貴重なご意見や要望をいただいております。いつでもこれらを参考にしながら、運営に反映できるよう取り入れております。また、ご家族様からの提案などにも耳を傾け、改善できる事は改善しながら運営しております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年から理事長にも参加していただき運営幹部会議を開催しております。運営に関する職員の意見が聞ける時間を設けており、職員の要望や意見を聞きながら、改善できることは改善していくという姿勢で、運営を行っております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の成果が給与に反映できるよう人事考課をこの4月から実施しており、やりがいのある職場環境の実践に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、札幌や旭川など積極的に職員を勤務扱いで研修に出しております。出張後の復命書も提出し、その後の職員会議の中で報告を行っております。また、介護職員初任者研修にも積極的に参加し資格の取得に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今年は事例発表後に他の事業所との研修会終了後において交流会に参加しており、横の連携を大切にしながら、すこしづつ新しい情報を取り入れながら、サービスの向上に繋がるように取り組んでおります。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安等コミュニケーションを取り入れながらスタッフ全員でセンター方式を用い、日々の生活が安心して送れるようアセスメントを行いながら、利用者との関係づくりに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に家族の心配していることなど家庭訪問を取り入れながら、聞き取り調査も行っており、今後の方針等のアドバイスなども行ってあります。また、家族の身になって考える姿勢で普段からも面接時等でも必要があれば、相談させていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族やご本人の悩みは意外と多くあり、利用者のご家族の関係がうまくいっているかどうかを見極めながら、心配事などに耳を傾け、その家族の抱えている課題などに適切なアドバイスが行えるように支援しております。また、ご本人の悩みなどもその時には言えなくても後で聞くように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員として捉えており、自分の親だったらどうするかを常日頃から心がけております。また、利用者同士も同じ家族といった気持ちが生まれており、入院などしたときには皆さんが心配するといった場面が見られております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援するのは本来の務めですが、ご家族の意見や考え方もきちんと聞き、勝手にホームの都合でサービスを展開するのではなく、例えば緊急に入院する場合、ご家族に連絡を取り、どこの病院が良いかを聞くなど出来る限りの配慮をするよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問支援や散歩、盆踊りや町内会行事等の参加を通じて、なじみの場所などとの関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が家族のようにいたわりながら生活している状況が見られております。一人ひとりの役割も構築されており、掃除担当や食事の後片付けを手伝ってくれるといったお互い助け合う気持ちが出てきております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期になって退去することになっても、いつも家族の一員として考えており、入院先の医療相談員や担当医師ともよく相談しながら、次の入居先なども見極めながら、ご家族に心配かけないようにご本人やご家族に支援しており、大変喜ばれています。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用やモニタリングを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。		
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の生活歴や昔から馴染んでいた生活などをご家族様に事前に書いていただき、介護計画の参考にしております。ただし、独り暮らしの場合は、家族に聞いても分からないことがあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月に一回のアセスメントを行い、その人の心身の状況や何ができて、何ができなくなってきたのかの把握に努めながら、毎日漠然と過ごすのではなく、1日を学園生活に置き換え、勉強するといった生活なども取り入れながら取り組んでおります。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすための課題とケアの在り方について、センター方式を活用してご本人、ご家族の意見や思いを反映するようにしている。また、モニタリングを通じて現状に即した介護計画を作成している。しかし、日常的に家族との係わりが少ないこともあり、ご家族の要望やご意見が聞こえづらいことになっていると考えてもおります。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録やバイタルチェック表を用いて、排泄の状況や血圧の状況、体温の状況など日頃から観察できるように、その日の記録だけでなく1週間前の状況などにも目を通して適切なケアができるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に即したその時のニーズを把握しながら、柔軟な支援ができるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇づくりなどを行い、お花を觀賞したりして、それぞれの方たちが楽しめる環境づくりを実践しております。また、夏期には北竜ひまわり祭りのカラオケ大会や、秋期には福祉大会や町の文化祭にも作品を出展するなど地域の行事等にも参加しており、季節に応じ楽しんでいただいております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援しております。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の勤務は、週一回午前中だけの勤務となっておりますが、皮膚疾患の処置やバイタルチェックを行っていただき、利用者の異常を職員が発見した時などには、適切なアドバイスをいただいております。また、夜間など相談したいときにはいつでも電話ができる体制になっていることから介護職員にとっても安心できる心強い存在となっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はいつもスムーズに市立病院側で対応してくれており、病状の説明や入院期間などの説明もあり、また、退院時は必ず前もって電話連絡があり、受け入れ準備がしやすく、利用者のお見舞いに1週間に1回程度病院へ出向き、看護師さんに状況を聞いて情報の把握にも努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできる事を十分に説明しながら方針を共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人命救助の方法についてすべての職員が熟知しているかというまだまだといった感じですが、救急救命として、今年は事業所においてAEDを購入し、その使用方法や人口呼吸法等の研修を、消防職員を招きご指導いただく予定となっております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の緊急時に協力等が得やすいように、火災避難訓練に参加を呼びかけ、協力体制の構築に取り組んでおります。また、夜間を想定した避難訓練を中心として毎回行っております。また、北竜消防署との合同火災消火訓練にも参加させていただいております。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように注意しながら職員間で話し合っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望やその思いをセンター方式を通して情報を職員間で出し合いながら自己決定していけるように取り組んでおります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その人のペースを大切にし、職員の都合で何でもしてしまうことの無い様に留意しながらサービスの提供に取り組んでおります。今日はどのように過ごしたイカは本人が決めるように日課は固定しておりません。その人らしく生活できるように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには普段から注意をしており、お化粧をすることは女性にとって生きがいともなっており、可能な限りお化粧を楽しんでもらっております。下着なども汚れやすいことから、ご家族にも説明を行いながら下着の購入にもご協力いただいております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と利用者が食事の準備や後片付け等を一緒に行っております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在はレトルト食品を朝食と昼食に使用しており、味の方も利用者様から美味しいという評価をいただいております。栄養の面でも管理ができており、よい傾向になっております。夕食は手作りとなり、利用者様の食べたい物を中心に作る等の工夫をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや口臭が生じないように、毎食後一人ひとりの口腔状態の観察や、本人の力でも口腔ケアができるように声掛けする等の支援を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔を個別にとらえるため、排泄チェック表を用い、できるだけ家族の経済的負担を軽減できるよう、時間を見計らってオムツに頼らないトイレで排泄ができるように努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や便秘を及ぼす影響を理解し、出来るだけ運動ができるように声掛けしたり、歩行介助等を行いながら、個々に応じた便秘予防に努めております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	利用者様の希望に応じて、毎日午前入浴や午後からの入浴も可能として行っております。職員の都合で、曜日や時間を決めてしまうことは行わず、個々の希望に沿った支援を心がけて行っております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の皆様が、いつでも休息したり、ホールのソファで昼寝ができる環境づくりを心掛けており、利用者様は自分のお部屋で休むのではなく、ホールのソファで好きなように過ごされ安心した気持ちで雑談したり、眠られております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の副作用や、用法、用量について理解しやすいようにいつでも見れる環境を整えており、服薬管理の支援と一般状態の変化にも留意する等にも努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課は特に決めておりませんが、その日の気分にもよりますが、勉強したい時にはいつでもできる体制を整えており、また、カラオケで歌を歌ったりと思いいに自分達で考え行動し、楽しい娯楽ができるように支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から冬にかけては、本人の希望があれば、職員と一緒に買い物や散歩に出かけたり、四季に応じた屋外ドライブや、町内や近隣地域の催し物などへ出向いていき、見学など行いながら楽しめるように支援しております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は入居前になるべく持たせないように家族などにも説明しておりますが、どうしてもというご家族様に対しては、本人の財布のお金は管理ができず、なくなっても責任が持てませんとお話しており、3000円程度まではご本人に持ってもらっております。買い物など行くときに使ってもらっております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などから来た電話の取次ぎも行っており、その都度対応しています。また、手紙を書く方もおられますので、郵便局に出すなどの支援も行ってまいります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間においては、趣味を凝らし、固いイメージがないように配慮しております。日中の照明は夜間を除き、一日中点けております。転倒予防にも役立っていると考えております。冬期間の温度管理は勿論の事、湿度管理では室内が乾燥していることもあり、中々湿度が上がらない状況もあり苦慮しております。ちなみにホール内では蒸気発生装置を4台使用し乾燥しないように努めております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で利用者同士が会話できるよう目配りをしながら、いつでも利用者様同士が話す事が出来る環境づくりに取り組んでおります。職員がお茶を出したり、コーヒーと一緒に飲んだりコミュニケーションがとりやすいような雰囲気づくりに努めております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、可能な限り自分の家で使っていた物を持って来ていただき、自分の家と同じような環境をご家族様に作っていただき、生活できるように支援しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、その人に応じた役割が日常生活の中で自然とできるように自分の部屋の掃除や洗濯たみ等をお願いしたりして支援を行っています。何でもしてあげるのではなく、何ができて、何が出来なくなっているのかを見極めながら支援を行っています。		



### 目標達成計画

事業所名 認知症高齢者グループホーム 碧水

作成日: 平成 29年 11月 6日

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	34	自然災害に対応する防災計画を作成しているが、災害等に対応する実際の避難訓練等を実施する必要がある。	自然災害を想定した訓練の実施。	・自然災害を想定した避難訓練、避難場所の確保、誘導方法を検証する。 ・避難時の炊き出し等についても検討する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。